ききょうだより

山県市立
美山小学校
第１３号
令和　２年
３月２３日

＝＝＝教育目標：『磨き　輝き　未来をともに拓く』＝＝＝

全てが宙に浮いたような状態で今年度が終わりを迎えようとしています。卒業式を前に、めざましい成長が見られるはずだった６年生をはじめ、子どもの声が響かない校舎に形容しがたい違和感を感じています。この３週間、保護者の皆様にはあんしんネットやホームページを活用しながら様々なお願いをしてきました。このことも含め、この一年間美山小学校のさまざまな活動にご理解・ご協力いただき、本当にありがとうございました。今は、新年度が通常に開始できることを祈っています。

経験したことのない３月

２月末、突然の臨時休業を児童に伝えました。多くの子は「えっ？」という反応で、状況や見通しがよく分からないまま休みに入ってしまいました。結果として３月の予定が全て飛びました。

学習については、ホームページでお知らせしているとおり、未学習の内容があります。学年・教科によって異なります。６年生のように未学習なしの学年もあります。未学習のある学年は、４月以降の新年度に学習します。「だったら本来の４月からの勉強が遅れてしまうんじゃないの？」という疑問が浮かびます。もちろん一時的に遅れますが、一年間を通して検証すると心配はいりません。学校は警報発令や積雪、インフルエンザによる閉鎖等に備え、ある程度の余裕をもって教育活動を行っているからです。

各ご家庭で色々な工夫をして生活しておられます。学校は、そういった保護者の努力を裏切らないよう、児童の命・健康を第一に考えた教育活動をこれまでも４月からも展開していく所存です。

いじめ・差別のない学校に
～たゆまぬ自己変革を～

この「ききょうだより」では、いじめの問題について色々な観点から論じてきました。

人間は教育なしで放っておかれれば他者を非難したり、疎外したり、排除したりすることで自分(達)の立場や利益を守ろうとします。これはある意味自然なことで、誰でもそうなる可能性大です。もちろんよいことではありませんが。私は、誰もがもつ、人としての弱さは４つあると考えます。

①誤解・偏見に基づく言動
事実を確かめもせず、間違った情報をうのみにするような合理的判断力に欠ける姿

②世間体に左右される意識
まわりの目を気にして、間違ったまわりに合わせていく姿

③間違った優越感に基づく意識
人の一面を見て人を見下げる姿（人の価値をある一面で決める）

④自己中心的な考え方
人の心の痛みをわかろうとせず、見て見ぬふりをする姿（自分さえよければいい）

これらの弱さは一度乗りこえたとしても、気を緩めるとすぐに大きくなります。そのため誰かが何らかのブレーキをかけなければ、どんな集団でもいじめや差別は起こって当たり前です。

一方で、人は生きていく過程で様々な困難や試練に遭遇します。それらの試練に強い心をもって生き抜いていかねばなりません。辛抱し、耐える強さが必要です。しかし、「事実に基づかない不合理な差別やいじめに耐えろ」というのはあまりにも理不尽です。教育の場で言うべき事では絶対にありません。では、どうすればいじめのない集団になるのでしょう。それは、身のまわりでいじめや差別があった時、知らん顔せず「おかしいよ」と言える人間になること以外にありません。そのためには、絶えず自分を見つめ、ありのままの自分と向き合い、弱い自分を変えていく営みを継続することです。かく言う私も実は同じです。すぐに弱い自分が出てきてダメな人間になりかけます。「そんなことで、職員や子どもたちに指導ができるのか」と自分に言い聞かせる毎日なのです。

どうか、できることからでよいので、弱い自分を変えていく努力をお願いして、このシリーズを終えたいと思います。これまで読んで下さり感謝します。ありがとうございました。

（校長　河村一彦）